

# Soccer News Shiga

サッカーニュースしが

[発行] (社)滋賀県サッカー協会  
 [責任者] 専務理事 奥村 弘  
 〒524-0212 滋賀県守山市服部町2439  
 ビックグレイク内  
 TEL 077-585-0982  
 FAX 077-585-0983  
 e-mail shigafa@oregano.ocn.ne.jp  
 URL http://www.shigafa.com

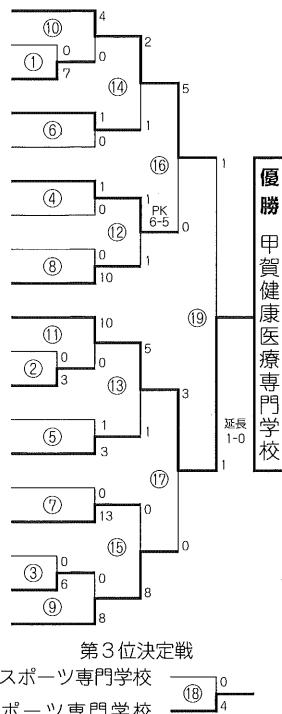
[印刷] 株式会社スマイ印刷工業

## ルネス学園甲賀が全国専門学校選手権で優勝!

第18回全国専門学校サッカー選手権大会が、10月27日～31日、東京都で開催され、甲賀健康医療専門学校が見事、3年ぶり4度目の優勝を果たした。同選手権は、各地域連盟から選出された19校が参加し、トーナメント方式で優勝・準優勝・第3位を決定する。

### 第18回全国専門学校サッカー選手権大会

- 1 履正社 医療スポーツ専門学校 (関西第2代表)
- 2 大阪ハイテクノロジー専門学校 (関西第3代表)
- 3 専門学校 北海道体育大学 (北海道第2代表)
- 4 横浜リゾート＆スポーツ専門学校 (関東・神奈川)
- 5 朝日リハビリテーション専門学校 (中・四国)
- 6 札幌リゾートアンドスポーツ専門学校 (北海道第1代表)
- 7 静岡医療科学専門学校 (東海)
- 8 大阪ビジネスカレッジ専門学校 (関西第4代表)
- 9 東京スポーツ・レクリエーション専門学校 (関東/東京第2代表)
- 10 甲賀健康医療専門学校 (関西第1代表)
- 11 名古屋リゾート＆スポーツ専門学校 (東海)
- 12 那霸日経ビジネス工学院 (沖縄)
- 13 仙台大原簿記公務員専門学校 (東北)
- 14 東京工学院専門学校 (関東/東京第3代表)
- 15 ホンダテクニカルカレッジ関東 (関東/千葉・埼玉)
- 16 鹿児島医療技術専門学校 (九州)
- 17 専門学校 群馬自動車大学校 (関東/群馬・栃木)
- 18 東京YMCA社会体育・保育専門学校 (関東/東京第4代表)
- 19 日本ウェルネススポーツ専門学校 (関東/東京第1代表)



登録番号	名前	ポジション	出身	学年
1	清水博之	GK	大産大付属	1
17	小西喜仁	GK	八幡商業	1
31	カジャス・アロンソ	GK	野洲	1
24	三崎隆治	DF	近江兄弟社	2
18	伏木克次	DF	八日市南	1
4	渡辺亮平	DF	佐伯豊南	1
5	上野幸弘	DF	佐伯豊南	1
3	志水克行	MF	野洲	2
33	久田未来	MF	野洲	2
34	里本拓也	MF	野洲	2
27	向井暁純	MF	野洲	2
30	宮下拓也	MF	鹿屋体育大Y	2
7	濱田雄太	MF	ヴォルティスY	1
13	澤純一	MF	八幡商業	1
32	山田浩史	FW	彦根西	2
14	梅村エイジ	FW	野洲	1
9	藤本信夫	FW	大産大付属	1
11	善平大介	FW	大産大付属	1
12	永井慎也	GK	江の川	2
25	橋本祐介	DF	守山北	2
36	金正訓	MF	ガンバ大阪	2
28	申太奎	MF	静岡学園	2
16	芝貴希	MF	神村学園	2

### 第18回全国専門学校サッカー選手権大会を振り返って

甲賀健康医療専門学校サッカーチーム監督 城山昌人

今大会3年ぶり4度目の優勝をすることができました。今年のチームは、関西リーグ2部優勝、そして1部昇格を目指し日々練習に取り組んできましたが達成することができませんでした。また、夏の大会を最後に2年生が多数引退をし、1年生を中心のチームで全国専門学校大会を迎えることになりました。新チームで臨んだ大会で優勝することができたのは、来年度の関西リーグへ大きな財産になった大会でした。

また、ここ数年来、滋賀県出身の選手が大半を占めております。関西リーグ・専門学校大会での優勝は滋賀県の皆さんのご指導やご協力があるからこそ達成したことだとチームスタッフ・選手一同、感謝しております。これからもよろしくお願いします。

### 結果

1回戦 等々力陸上競技場

野洲高等学校 (滋賀) 1 (0-8) 0 岐阜工業高等学校 (岐阜)

2回戦 ニッパツ三ツ沢球技場

野洲高等学校 (滋賀) 2 (1-2) 3 鹿島学園高等学校 (茨城)

大会優秀選手 坂本一輝



### 大会報告書

### 第87回全国高等学校サッカー選手権大会

背番号	ポジション	名前	学年	前登録チーム名	背番号	ポジション	名前	学年	前登録チーム名
1	GK	横江諒	3	セゾンFC	14	FW	梅村崇	2	セゾンFC
2	DF	福本匠吾	3	ヤスクラブ	15	MF	卯田堅悟	2	セゾンFC
③	DF	西口諒	3	AC_SFIDA	16	MF	込山祐司	3	立花VIVORIO
4	DF	端山亮平	3	ヤスクラブ	17	GK	鳥家淳樹	2	セゾンFC
5	MF	富田慧	3	エルフ	18	MF	林晃佑	3	AC_SFIDA
6	MF	中川圭右	3	ヤスクラブ	19	DF	田中利一	3	セゾンFC
7	MF	藤野友貴	3	セゾンFC	20	DF	染川浩太	2	大阪セントラルFC
8	MF	潮入啓太	3	セゾンFC	21	MF	梅村徹	2	セゾンFC
9	MF	上田大輔	3	セゾンFC	22	MF	森下直哉	2	セゾンFC
10	FW	坂本一輝	3	石部中	23	MF	松田康佑	2	京都パープルサンガ
11	MF	松永俊吾	3	京都パープルサンガ	24	DF	竹内一希	1	セゾンFC
12	FW	福原拓己	3	ヤスクラブ	25	MF	佐藤拓哉	1	セゾンFC
13	DF	松原賢志	3	京都パープルサンガ					

**バーモントカップ****第18回全日本少年フットサル大会**

2009年1月4日(日) 於:駒沢体育館

一次ラウンド 江南南サッカーボー少年団(埼玉) 10-0 セントラル  
 カティオーラ(大分) 6-0 セントラル  
 フレンドリートーナメント シーガルFC(広島) 1-0 セントラル

江南南戦は、立ち上がりから大変緊張していて、いきなり開始5秒で失点し、浮き足立ってしまい、セントラルらしいところも見せられないまま大量10失点を喫した。カティオーラ戦は、何とか気持ちを切り替えて臨んだものの、相手の早いプレストロングシュートに苦しみ、セントラルらしさが随所にみられたものの6失点と、結果予選3位に終わりました。

レントリートーナメントに入り、ここ数年、滋賀県代表は全国大会で1勝もあげることができないので、何とか1勝をあげるつもりでシーガルFCと対戦しました。結果は0対1の惜敗となりましたが、選手たちは非常に頑張ってくれました。また、来年に向けて全国を舞台に活躍できればと思います。



監督	前田 勝城	
背番号	ポジション	名前
1	GK	中村峻也
2	FP	林 大樹
3	FP	牧田祐士
4	FP	田口翔大
5	FP	木田湧斗
6	FP	中川拓海
7	FP	増田敬介

**平成20年度 第57回全日本大学サッカー選手権大会出場報告**

びわこ成蹊スポーツ大学監督 松田 保

第86回関西学生サッカーリーグは1部12チームの通年リーグ(4月5日開幕—11月30日閉幕)で新しくスタートした。前期は下位2チームに破れ3位で折り返した。後期は一時期トップを走っていたが、桃山大に負け、トップ阪南大との決戦を引き分け準優勝に終わった。創部5年目の昨年度は前期に優勝したが、後期は6位にとどまりインカレの出場権を逃がした。今年の目標は通年リーグ優勝とインカレ出場権獲得であったが、何とかインカレの出場権は確保できた。

目標としていたフェアープレー賞を受賞。アシスト王を3年生の平野甲斐(立正大湘南高)が、ベストマネージャー賞を4年生の谷崎達哉(洛北高)が受賞した。

最終日の11月30日に関西2位でインカレ初出場を決めたが、関西2位の対戦相手は、2週間前から九州の2位福岡大に決まっていた。関西の順位が決まるのは全国で一番遅く、他の地域からしっかりとスカウティングされてインカレを迎えることになった。

結果的に関大が国士館大にPK負け、阪南大は高知大に競り負け、関西3チームが1回戦で姿を消すことになった。

**インカレ1回戦** 12月21日(日) 栃木県足利陸上G 13時50分 Kick off  
 びわこ成蹊スポーツ大(関西2位) 0 - 2 福岡大(九州2位)



インカレ1回戦VS福岡大 びわこ成蹊スポーツ大 スタートメンバー  
 前列左・小川④(開成) 小池③(守山北) 中原④(青森山田) 船津(湘南) 浅津(湘南)  
 後列左・下西③(野洲) 土井①(エストレラ) 安本②(ガンバ) 山田③(枚方) 内野②(野洲)  
 平野③(湘南)

立ち上がりは、びわこ大のペースでいくつかチャンスをつくったが、前半13分カウンターから福岡大エース⑩永井(U20日本代表)のスピード

を止められず先取点を許す。後半1点のビハインドを取り返すためにメンバーを交代し、もう一度立ち上がりのようなびわこ大のペース・リズムでサッカーをしようとしたが後半をスタートした。9年連続33回目の出場を誇る九州の名門福岡大は、メンバーのほとんどが日本学生選抜・九州学生選抜と実力的に優り、何度も決定的なチャンスをつくりびわこ大のゴールを脅かした。関西リーグでも我慢さえできれば必ずチャンスがやってくると、厳しい内容でも耐えしのぎ良い結果に繋げてきたのだが、後半22分びわこ大DFが我慢出来ずPKをとられ一発退場。PKも決められて0-2とリードされた。数的不利になって4FBから3FBにし、むしろ積極的に攻め続け何度もビッグチャンスをつくった。最後まであきらめずに勝負をかけて戦ったが、初出場は力が出し切れないままの初戦敗退となった。

福岡大は準々決勝でも優勝候補筆頭の関東リーグ1位流通経済大に互角の戦いをしたが0-1で惜敗した。その流通経済大も準決勝で筑波大に3-2とリードしているながら、ロスタイムに追いつかれ延長PK戦の末敗れた。決勝は関東3位筑波大 VS 関東4位中央大と、ダークホース同士の関東決戦となり中央大が2-1で筑波大を下し、16ぶり8回目の優勝を飾った。

7月の総理大臣杯は関西決戦(大阪体大 2-0 阪南大)であったが、Jリーグの影響か近年高校も大学もどんどん地域格差がなくなり、どの地域からでも優勝することが可能になってきた。しのぎを削るチームが多い地域が、ゲーム運びの美味さや勝負へのしたたかさを身につけ良い結果を出しているといえる。関西も1部2部と、もっとしのぎを削るゲームを多くして、勝負強くなり結果を出してゆかねばならない。

6年前びわこ成蹊スポーツ大学創設と同時に豊田前部長(現顧問)と50人の1期生と共にサッカー部を創部。大学日本一を目指し社会人4チーム(HIRA・ROSAGE・U-23・LAGO)を含めて8チーム220名が、プレーヤーと指導者・マネージャー・トレーナーなどと両立し、BSCスポーツクラブ(BSC)のメンバーとしても「キッズからの百年構想」に参画し、地域に根ざして活動している。昨年度バルセロナからの地(マネージメントコース教授)部長を迎えて世界に目を向け、今年度なでしこジャパンコーチの元日本代表の望月氏(情報戦略コース准教授、守山高一大商大・レッズ)を迎えた。来年度より望月コーチは、トップの監督となでしこのコーチを兼ね、大学日本一とロンドンのメダルを目指し、その手腕を発揮していただくことになっている。

クラマーが言ったように、地域創り・人創りは、先ずは指導者創りから。高い目標を実現させるプロセスを現場で学びながら、日本のスポーツ・サッカーの発展に貢献できる人材を、びわこから地域に送り出したい。

**施設委員会からの報告**

松木 栄一郎

日本サッカー協会(JFA)は毎年都道府県別スタジアム一覧を発表していますが、滋賀県の獲得ポイントは、わずか4ポイントで全国最下位となっています。

皇子山陸上競技場と彦根陸上競技場は「クラス3」J2を開催できる「クラス2」のスタジアムがありません。JFLに参加しているSAGAWA SHIGAやMIOびわこ草津が4位以上の成績になっても滋賀県に「クラス2」のスタジアムがなければどのチームもJ2に上がることはできません。滋賀FA2007「夢」宣言でもスポーツ環境の充実として施設委員会の立ち上げと2万人スタジアム(クラス1)建設を到達目標に掲げています。

昨年10月、協会理事と協会以外からも委員を公募した結果、JFLチーム関係者はじめ11名の参加があり、毎月1回のミーティングを行っています。

内容は、県内のグランド状況の把握や調査、海外の最新スタジアム、人工芝、夜間照明施設の動向などスタジアム建設だけでなく、スポーツ環境を幅広く捉えて活動していく予定です。活動の結果をHPのピッチファインダーやブログ開設をして報告していきます。特にJFAグリーンプロジェクトが進める「ポット苗方式芝生化事業」を協会所属の全チームに案内しましたが、多数の応募を期待します。(1月30日締切り)

# 「夢」

1級審判員 植田文平



小学校3年生からサッカーを始め、びわこ成蹊スポーツ大学サッカー部に入部したとき、審判の魅力に出会った。プレーはもちろん、審判をすることも大事という監督の考え方で、部員全員が4級審判の免許取得を求められた。

当時、Independentリーグ（通称Iリーグ）の試合を帯同審判として審判をしなければならなかったのだが、最初は嫌々していたのを覚えている。しかし、選手の「いい試合だった」という声に達成感を覚え、徐々に審判というものに意欲や楽しみを見出すようになった。審判の楽しさを覚えた私は、関西学生サッカー連盟審判部に加入了。主にIリーグの試合で主審をしたが、当時の私ではゲームコントロールできないくらいのレベルが高かった。その後、審判経験が増えるにつれ、何とかゲームコントロールできるまで技術が向上し、25歳までに1級審判員になるという長期目標ができた。

目標設定を行い、夢に向かって努力すれば必ず夢は叶うと信じている。自分の好きなことをする上での苦労は苦にならない。辛く苦しくても夢があるから頑張れる。その苦労を乗り越えることができたときに夢が実現すると私は信じている。学生時代の夢を実現できたことは誠に嬉しく思うが、1級取得が自分のゴールではない。次は、Jリーグ審判員のカテゴリーへステップアップし、国際審判員の資格を取得したいと思っている。その夢の実現を目指してさらに努力を重ねたい。審判を始めてから6年と経験は浅いが、1級審判員として誇りと自信を持ち、「Fair Play」と「Respect」精神を忘れず尽力したい。

最後になりましたが、サッカーの技術面・戦術面はもちろん、サッカーをする上で大切な生活面や審判技術をご指導いただいた方々、また試合を提供し運営をして頂いた方々など多くの人に支えられ、晴れて1級審判員になることができました。心からお礼申し上げます。自分の得た知識・技術を滋賀県サッカー、関西サッカーチームには日本サッカーの発展に貢献できるようこれからも精進して参りますので、変わらぬご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。



## プロフィール

植田文平（ウエダ ブンペイ） 1984年生まれ（24歳）

出身：大阪府吹田市

### <サッカー歴>

吹田千里FC	大阪府立芥川高校サッカー部
大阪セントラルFC	びわこ成蹊スポーツ大学サッカー部

### <審判歴>

2003年 4級審判員 取得	2005年 2級審判員 取得
2004年 3級審判員 取得	2008年 1級審判員 取得

## 植田文平氏に期待します

滋賀県サッカー協会 審判委員長 村井滋一

1級審判員昇級おめでとうございます。審判の道に志して、わずか6年で1級審判員に成られたことは、とても素晴らしいことであります。滋賀県で現役1級審判員3人目という成績をもたらしてくれました。数年前の1級審判員の不在県という有難くないレッセルを貼られた頃からは想像もできなかったことです。

大変な努力をされ、審判地域トレセンに参加する等で活躍されたことが、1級昇級というような大きな成果に結びついたのでしょうか。ただし、周囲の環境に助けられたことも忘れないでください。貴殿の母校であるびわこ成蹊スポーツ大学の開学、ピッグレイクの完成、JFLに県内から2チームが参戦、関西リーグチームの増強等が好影響を及ぼし、さらに多くの県内サッカー関係者の援助によって、昇級に導かれたのです。

1級審判員というのは、あくまでも通過点であり、24歳という年齢を考えてみると、サッカー以外での人生経験をどんどん増やすことで、レフェリングの糧にしていくことだと思います。

最後に、滋賀県所属の1級審判員である今村、村井両氏と切磋琢磨して、競走原理を働かせ、夢の国際審判員へステップアップして頂けることを望んでいます。

## ママ・パパの声



今回アンケートに協力していただきました滋賀SCキッズアカデミー（ピッグレイク）のママ・パパの皆さん、ありがとうございました。サッカーにとても熱心な方々で、キッズたちも思う存分楽しんでいるようでした。では、アンケートの中の一部を紹介します。

### 「自分はルールがわからないので、子供に教えてあげられない」

そうですねえ～。確かにややこしいルールが多く、特にオフサイドは説明するのも難しいものです。そんな時はコーチや、この人なら知っているかな～と思う人に聞いてみましょう。きっと丁寧に教えてくれるはずです！もし、知ったかぶりをする人がいたら、そっとその場を離れましょう。

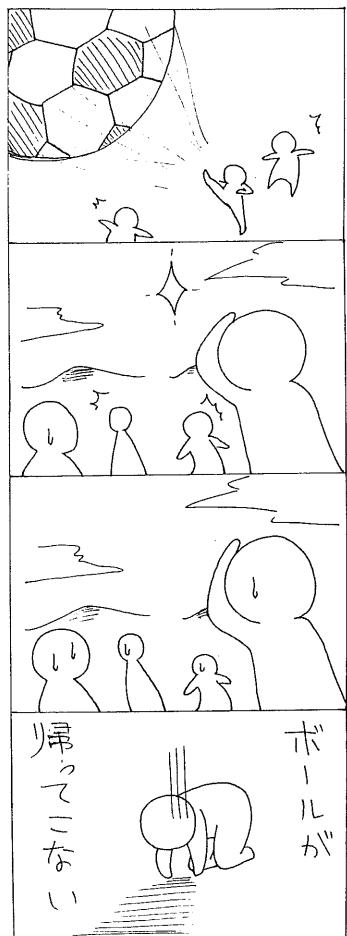
**「チームに入って間もない頃、子どもが『コーチがさあ、ボールをさあ』と、一生懸命、何回も話してくれるのに、『コーチって誰？』って聞いてみると、実は『コーチ』ではなく、『コーチ』だということがようやく理解できました。」**

面白い話ですが、実はここに、サッカーで最も大切なコミュニケーションという要素が含まれています。大人が当たり前のように使っている言葉が、子どもたちには通じていないのに、子どもたちはわからないままや間違って理解してもらっていることがあるんですね。そういう時は、子どもにもわかる言葉に置き換えてみて、きちんと理解させてあげましょう。また、このママのように、何でも言ってもらえる関係を築いておくこともとても大切です。でも、コーチの名前が本当にコウジさんの場合もあります…



思わず笑顔になってしまうような内容のものや、「広報紙に多彩な情報を載せて欲しい」「サッカー用品のリサイクルコーナーがあるといいなあ」というご意見、ご要望などもいただいているが、紙面の都合上、すべてを紹介できないのがとても残念です。皆さんの貴重なご意見を今後の活動に生かしていきたいと思います。ご協力ありがとうございました。

また、日本協会からは、キッズの保護者向けに「めざせベストサポーター」という小冊子が発行されており、県協会事務所にも置いてありますので、ぜひ、ご覧いただきたいと思います。



滋賀県サッカー協会技術委員会



# あなたの指導はそれで大丈夫ですか？

力石 隆治

連載としまして、今回は小学生年代、特にU-12の指導にポイントを置いてお話しします。

このU-12年代を取り巻く環境を考えてみると、まずは、どのように指導者や保護者が関わるかが非常に大きいといえます。私の知る現状は、指導者の方々はそれぞれに、ご自分のお仕事やご家庭がある中で、単に技術指導のみではなく、チームマネージメントをごなされていることが多く、多忙極まりない状況でどうしても自分のサッカー経験だけに頼ってしまったり、目の勝利だけにこだわってしまうことがあるようです。また、保護者の方も「勝てば成功、負ければ失敗」という見方をされていることもあります。でも、子どもたちはその中で、大人を信頼し、信用し、精一杯の力で、その大人の声援にこたえようとしています。ここで私が強調したいのは、誰もが子どもたちの大きな成長を願っているわけです。ただ、関わり方を間違えると、成長どころかケガの原因になったり、練習に行きたくない、クラブを辞めたいというようなことにもなりかねません。では、U-12において私たち大人が何を理解しておかなければならないのでしょうか？そしてプレーしている子どもたちに何を獲得させて次の年代へ送り出せば良いのでしょうか？

最も基本となる考え方は、

## 自立期においていかに大きく成長させるかを第一の目的とする

ことです。そこで、トレーニングの考え方ですが、U-12年代＝ゴールデンエイジであり、人生の中で最も技術習得に適した年代です。この時期に、徹底的に「基本」を教える必要があります。この「基本」ですが、「そんなことはわかっている」「やっている」と思われているかもしれません、そのクオリティーのレベルをもっと上げなくてはいけません。ここで、サッカーにおける「基本」をまとめておきましょう。

### On the Pitch (サッカーをしている時)

- 実践するための要素：**動きながら**のコントロール、キック、ドリブル、ヘディングなどのスキル
- 判断のための要素：インフォメーションを得るために**観る**こと、有効な視野を確保すること
- 関わるための要素：コミュニケーション（声、手、目など）
- 要する姿勢／**ハードワーク**：常に全力でプレーする態度

これらをしっかりと身につけるためには「**反復**」は欠かせません。そして、その技術をゲームで生かせるように状況判断をした上での**動きながら**の技術に磨き上げていくことも大切です。この「基本」の徹底によって個性が失われてしまうと考える方がいらっしゃいますが、全くそうではなく、基本がしっかりした土台となってこそ、良い個性の成長があるわけです。また、私たち大人が肝に銘じておかなければならぬことなのですが、**子ども自身が判断しプレーする力を身につけられる**ように、サイドコーチングによって子どもたちから判断の要素を奪うことは絶対に止めましょう！！サッカーをするのは大人ではなく、子どもたちなのです。その意味では、子どもの成長には、チーム練習や試合だけではなく、自分たちだけでサッカーを楽しめたり、保護者の方々や、兄弟姉妹、年上や年下の仲間とサッカーが出来る環境を設定することも良いことです。U-12では集団の中で行動するうえで「自分の考えをもつ」「表現する」ことを励まし、育てることが大切です。

### Off the Pitch (日常生活で)

- 自分のことは自分でやる：準備・後片付けは自分です。忘れ物は自分の責任。
- 社会的なルール・マナー：あいさつが出来る。時間を守る。電車などのマナー
- 規則正しい生活：食事・睡眠・休養
- コミュニケーション：自分の考えを伝えることができる。
- 仲間作り：友達を大切にする。協力する。
- 学校：学習を頑張る。当番活動に積極的に参加する。
- 感謝：サッカーのできることでのいろいろな方への感謝
- 何事も全力で取り組む：やる前にあきらめないで、やってみる積極性

これらを全てさせようと思っても難しいことが多いでしょう。ただ、私たち大人が、トライ＆エラーを認め、「待つ」余裕を持つことができるようにならなければなりません。子どもたちを変えることができるの**は私たち大人です！！**教えすぎは禁物です。答えをすぐに示すのではなく、考えさせましょう。そして**「ほめること」「励ますこと**を中心に声かけしてください。また、子どもは大人を絶対に真似します。子どもを見れば、どんな大人が周りにいるかが推し量れます。子どもが一生懸命プレーしているにもかかわらず、審判に文句を言っているベンチを見かけます。良い見本を心がけてください。そして、最後に次のことを忘れずに。**Players First!** あくまで、私たち大人は、子ども達のサポーターなのです。

次回は、連載第3回としまして、U-14の指導に絞ってお話しします。

### From an Editor

好きな言葉に“Carry the Ball Close to Your Heart”というものがあります。これは第5回フットボールカンファレンスでUEFA技術委員長のアンディー・ロクスブルク氏が話されていた言葉です。私は、小さい頃にサッカーと出会い、サッカーを学ぶだけでなくサッカーで学ぶことができ、そこから自分の人生の方向性を見いだしてきたように思います。今は、自分を育ってくれたサッカーに対して少しでも恩返しができればという思いで、日々過ごしています。心のそばにいつでもサッカーボールを置いて・・・(は)